

2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2007年1月31日

I 概要

実践団体・担当者名	国立大学法人 愛知教育大学附属高等学校（担当者：細山光也）	
連絡先	電話 0566-36-1881	
プランタイトル	自然災害と防災への理解を深め行動できるようにする防災教育プランと教材の開発	
目的	地学を履修しない生徒に対して、台風や集中豪雨、地震、津波などの自然現象と、被災する土地の条件（地形や地質）や街のつくりなどが相互に影響し合うことを理解した上で、普段から考えて取り組ませるといった防災教育のプランと教材を開発する	
プランの概略	<p>本校で地学を履修しない生徒に対して、台風や集中豪雨、地震、津波などの自然現象と、被災する土地の条件（地形や地質）や街のつくりなどが相互に影響し合うことを理解した上で、普段から考えて取り組ませるといった防災教育のプランは、愛知県のようにほとんどの学校で地学が履修できない学校でも理科の授業内の一部を使用して行うことや、特別活動、課外活動の時間を利用することによって実施可能ではないかと考えた。チャレンジプランを利用させていただいて、本校だけでなく広く一般の高等学校でも実施可能な防災教育のプランと教材作りを行い、本校での実施を通じてその有効性を検証していきたいことが、今回の応募の動機である。防災教育プランと教材の完成後は、希望に応じて各高等学校に配布を行いたいと考えている。</p>	
プランの対象と参加人数	本校生徒 600 名（1 学年 5 クラス×40 名）、指導者として本校教員 32 名	
実施日時	2006年5月23日、6月6日、12日、14日、7月4日、6日、14日、7月27日、31日、8月1日、3日、18日、24日、25日、30日、9月1日、4日、5日、13日、26日、10月3日、31日、11月10日、21日、12月5日、1月16日、17日、他	
主な実施場所	愛知教育大学附属高等学校 地学室、合併教室、体育館 愛知工業大学地域防災研究センター 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山・防災研究センター	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	(1) 愛知工業大学地域防災研究センター (2) 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山・防災研究センター
	連携したきっかけ・理由	(1)(2)とも以前から活動に興味があったため今回のことをきっかけに連携したいと考えた。
	連携団体へのアプローチ方法	(1)(2)ともHPで調べ電話連絡し、本プランの趣旨を説明したところ賛同していただいた。
	連携団体との打合せ回数	1時間 × 2回 2時間 × 3回 3時間 × 1回
連携団体との役割分担	(1)(2)とも本プランの意義や進め方について相談した。また生徒の施設見学を行った。 (1)では機材の貸し出しをしていただいた。	

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	4 名
	外部スタッフの総人数	2 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 細山光也（理科 地学担当） 企画・渉外 安形和之・足立 敏・加藤 透（理科） 制作 渡邊敬江・安部井瞳（講師・助手）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2005年12月 ～ 2006年1月
	立案時間	およそ20時間
	上記のうち打合せ回数	2時間 × 3回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ外部の協力を得やすいようにする ・一般校でも再現できやすい教材にする ・本校でのこれまでの成果を取り入れるようにする 	
プラン立案で 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・一般校への広報をどのように有効に行うか ・生徒の理解度をどのようにして計るか 	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	4 名
	外部スタッフの総人数	2 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者・事務 細山光也（理科 地学担当） 企画・渉外 安形和之・足立 敏・加藤 透（理科） 制作・準備 渡邊敬江・安部井瞳（講師・助手）
準備に要した日 数・時間	準備期間	2006年2月 ～ 6月
	準備総時間	およそ60時間
	上記の内打合せ回数	2時間 × 4回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	(1)愛知県防災局防災危機管理課 (2)愛知県立高等学校
	どのように働きかけたか	(1)電話連絡で説明し協力を求めた。 (2)本校の教育シンポジウムに参加していただけるよう文書で案内した。
	結果	(1)企画・実践等でのアドバイスをいただいた。 (2)教育シンポジウムに参加して意見をいただいた。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	(1)NPO 法人 スマートシニアーズ（愛知県日進市）
	どのように働きかけたか	(1)インターネットで検索し、防災の活動を普及する講座をお願いした。

	結果	(1)小中学生対象の防災の講座を開催した。
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	(1)本校 PTA
	どのように働きかけたか	(1) 本校の教育シンポジウムに参加していただけるよう文書で案内した。
	結果	(1)教育シンポジウムに参加して意見をいただいた。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	(1)教育シンポジウム ・機材 パソコン、展示スペース用机 ・教材 防災に関する B 紙、防災用地形立体模型
	入手先・入手方法	(1)教育シンポジウム ・ 機材 パソコンは愛知工業大学から借用、 ・ 展示スペース用机は本校備品 ・教材 本プランの予算で材料を購入し制作
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	(1)教育シンポジウム ・機材 事例紹介のため ・教材 生徒の活動を示すため
参加者の募集	募集方法	・前述の教育関係、地域、保護者への案内配布 ・本校ホームページへの掲載
	募集期間	2006年9月1日～10月31日
	参加予想人数	40名
	実際の参加人数	24名
	募集方法の成功点	・ホームページへの掲載を併用したため文書では伝わりにくい参加者へも伝わった。
	募集方法の失敗点	・県立学校への文書を各1通にしたため、管理職以下に伝わらなかった事例があった。
準備で苦労した点・工夫した点	<p>・生徒を大いに活用し、その事例を紹介できたことは、参加者の反響が大きく成功であった。</p> <p>・授業を公開したが、シンポジウム当日他の分科会も重なり人手が不足して写真等の記録ができなかった。</p> <p>・県立学校の参加者は少なかったが、参加した人の意識は高かった。</p>	

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月			
12月	・校内での呼びかけ ・計画・立案		
2006 1月	・1/10 本プランの企画・応募		
2月	・2/9 準備委員会打合せ		
3月	・3/16 防災教育準備委員会打合せ		
4月		・4/10 防災教育生徒委員会の募集	
5月		・5/11 防災教育委員会立ち上げ ・5/23 第1回防災教育委員会	
6月		・6/6 第2回防災教育委員会 ・6/12 第3回防災教育委員会 ・6/14 第1回防災教育生徒委員会	
7月		・7/4 第4回防災教育委員会 ・7/6 第2回防災教育生徒委員会 ・7/21、31 模型等作成	・7/4～14 授業研究実践
8月		・8/1、3、18、24 模型等作成	・8/25 愛知工業大学訪問 ・8/30 名古屋大学訪問
9月		・9/4 第3回防災教育生徒委員会 ・9/5 第5回防災教育委員会	・9/1 防災訓練 ・9/13 学校祭での展示・発表 ・9/26 授業研究実践
10月		・10/3 第6回防災教育委員会 ・10/31 第4回防災教育生徒委員会 ・シンポジウム準備	
11月		・11/9 シンポジウム前日準備	・11/10 教育シンポジウム開催 ・11/21 第7回防災教育委員会、反省会
12月			・12/4 第5回防災教育生徒委員会
2007 1月			・報告書等作成

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	高校教育シンポジウム			
実施日	11月10日			
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	公開授業:自然災害と防災教育の授業を公開して参加者に見ていただく	分科会1:シンポジウムの趣旨と公開授業の内容を説明し参加者に理解していただく	分科会2:公開授業と分科会1の内容をもとに参加者が討論し授業内容の改善点をまとめる	
生成物	生徒の記入したプリント			
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・導入 ・展開1 愛知県で予想される自然災害 ・展開2 学校と自宅周辺の防災 ・展開3 災害発生時の対応 ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムの趣旨説明 ・公開授業内容の解説 ・県立校での実践について 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業内容についての討論 ・自然災害と防災をいかに教えるかについての討論 ・愛知県防災局防災危機管理課の指導 	
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業用プリント ・防災用品 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン ・プロジェクタ ・B紙・地形模型 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン ・プロジェクタ ・B紙・地形模型 	
場所	1年5組教室	地学室	地学室	

VI実践後

参加者へのアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害を説明するとき自然現象と土地条件などの関係がよく理解されていなかった。 ・土地や町の災害への強弱は利権が絡むので学校で教えるのは難しいか。 ・討論の時間が短かった。延長したがまだ足りないと思う。 	
成果として得たこと	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した学校や団体の交流ができた。 ・計画どおり授業の改善点が話し合えた。 ・愛知県防災局防災危機管理課などを仲立ちとして広げていこうという流れができた。 	
成果物	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案 ・授業用プリント ・改善した授業用プリント ・シンポジウム資料 	
広報方法	広報した先	シンポジウム参加者募集と同様
	広報の方法	本校ホームページ
	取材にきたマスコミ	なし
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	なし
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムに参加していただいた人たちの連携は深まったが、もっとも期待された県立校からの参加者が少なかった。 ・今後はホームページをもとに公開を進める予定であるが、利用してもらうためにはいかにして宣伝するかを考える必要がある。 	
今後の予定	来年度以降の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降もシンポジウムを開いていきたい。 ・ホームページで教材等を公開していく。
	是非実施してみたい取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO などを通じて一般の人や小中学生にも公開していきたい。
自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度予想はしていたが、県立校の参加者が少なかった。このことは愛知県防災局防災危機管理課でも同様のとらえ方をしていた。 ・秋頃からラジオなどのマスコミが東海地震だけではなく、東南海、南海地震についても警戒するよう呼びかけるようになった。学校現場も上からの指示を当てにするだけでなく、もっとも軽快すべきは何かを自治体とともに考えていかなければならない。 	